ひと・くらし・みらい AKARUISHAKAI

明るい社会

No.703

北のまちから あったかハート
ほっとちゃん
北海道内社会福祉協議会イメージキャラクター

道社協Facebook

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金
ここにも役立てられています



1
2025年度

目次

特集「孤独・孤立～誰ひとり取り残さない地域を目指して～」 2
道内福祉施設・事業所・団体紹介「はぁとステーション」 6
共同募金会からのお知らせ 7
「ほっとチャンネル」①市民活動団体の取り組み 8
「ほっとチャンネル」②社会福祉協議会の取り組み 9
寄付・寄贈のご報告 10
授産製品紹介「きらきらマルシェ」 11

特集

孤独・孤立
～誰ひとり取り残さない地域を目指して～

近年、地域社会とのつながりが薄れる中で、「孤独」や「孤立」が深刻な社会問題となっています。特に新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との関わりが制限され、地域のつながりが一層希薄化しました。

高齢化や過疎化が進む中で、一人暮らしの高齢者をはじめ、若者や子育て世代など、あらゆる世代が孤独や孤立に直面する可能性があります。

こうした状況を受け、令和６年４月に「孤独・孤立対策推進法」が施行され、現在、北海道内でも、道や市町村、民間団体が連携しながら、地域全体で支え合う仕組みづくりが進められています。

本号では、北海道内における具体的な孤独・孤立対策の取り組みについてご紹介します。

孤独・孤立に寄り添う支援のかたち
～北海道ねっとわーくの取り組み～

一般社団法人北海道ねっとわーく　理事　佐渡 洋子

1．「孤独・孤立」とは

日本が抱える社会課題として、核家族化や少子高齢化、単身世帯・単身高齢世帯の増加、非正規雇用労働者などの雇用環境の変化、未婚化・晩婚化などが指摘されて久しくなりました。さらにインターネットの普及による情報社会の進展も相まって、人々の社会や地域との関係性やつながりは希薄化の一途をたどっています。このような社会の変化に伴って、日常生活や社会生活の中で孤独感を感じていたり、社会・地域・友人・親類・家族などから孤立し、小さな困りごとにも「助けて」と言えない社会になっているのではないでしょうか。こうした孤独感や孤立感を抱くことは、誰にでも経験のあることだと思います。しかし日常的な困りごとを誰にも相談できず、抱えている課題が積み重なり、事態が複雑化すると一人では解決できない「社会的孤立」状態になってしまいます。さらに深刻化すれば心身の不調などに繋がり、医療的なケアが必要になるなど最悪の場合には自死や孤独死にもつながる根源的な問題でもあるのです。

そのため、地域や身近にいる人々がお互いに気にかけ合い、社会や他者との「つながり」の中で誰もが「助けて」と言える社会の実現に向けた地域社会の再構築が重要になっています。

2．孤独・孤立対策推進法の成立と取り組み

孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和６年）の調査結果によると、孤独感について「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は４・３％、「時々ある」が15・４％、

図１　孤独の状況（直接質問）－令和６年、５年、４年、３年

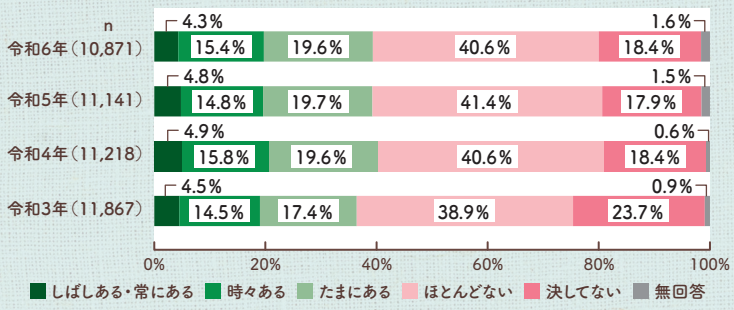
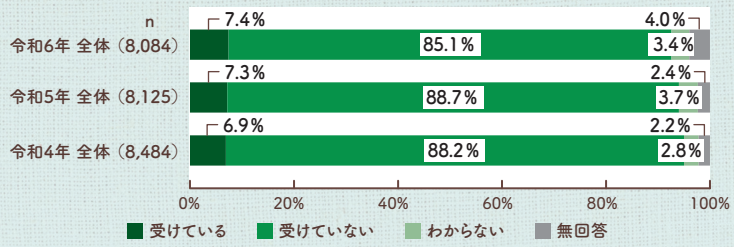


図２　不安や悩みに対する行政機関・NPO等からの支援の状況



●行政機関・NPO 等からの支援の状況

- 支援を「受けていない」と答えた人の割合が85.1％で、令和５年より縮小
- 支援を受けていない理由としては、「支援が必要ではないため」と回答した割合が62.6％と最も高い

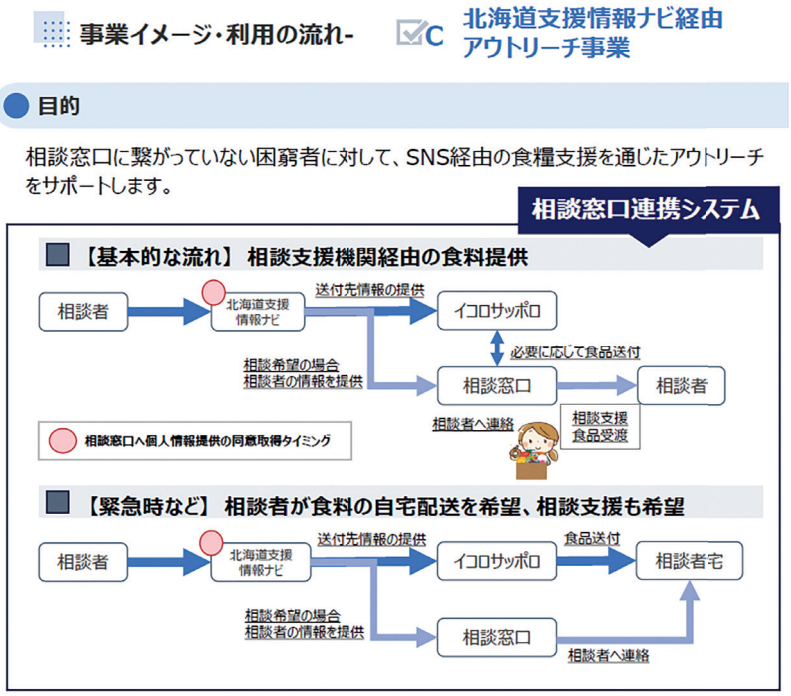
（注）行政機関・NPO等からの支援については、日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した人を対象として尋ねている。

「たまにある」が19・6％→合計約4割が「孤独感がある」と回答しています（図1）。

また、日常生活に不安や悩みを感じることがあると回答した人のうち、支援を「受けていない」と答えた人の割合が85・1％と、ほとんどの人が支援を活用していないことがわかります（図2）。

このような孤独・孤立の問題に対して、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人との『つながり』が生まれる社会」を目指すことを目的として、令和5年に孤独・孤立対策推進法が成立しました。同法では、国や地方自治体による総合的な施策の推進とその体制が定められるとともに、民間団体や地域住民との連携・協力が重要であるとされました。具体的には内閣府に孤独・孤立対策推進本部が置かれ、重点計画の作成や実態把握、相談支援の推進、支援者間の連携・協働、人材育成などが示されています。

また、孤独・孤立対策の必要性を地域住民が理解することも大切です。その具体的な推進の枠組みの一つとして国が事業化したのが、「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」です。この事業は法律ができる前の令和4年度からモデル的に開始され、道内では北海道、釧路市、登別市が事業を実施しています。



3.「北海道ねっとわーく」としての孤独・孤立対策の取り組みと現状

当団体では、北海道内で孤独・孤立状態に陥っている方を含め、必要な人に必要な支援が届くような支援体制の整備を目的に、①北海道支援情報ナビの運営、②フードバンク窓口連携事業の実施、③北海道生活困窮者支援ネットワーク【どうねっと】の事務局運営を3つの柱として事業を展開しております。ここでは当団体が行っている「支援者支援」の取り組みについてご紹介します。

①【北海道支援情報ナビ】～孤立する支援を必要としている方へのアウトリーチ事業～

COVID-19の影響で支援情報が急変する中、支援対象者も支援者も孤立し、必要な情報にたどり着けない状況がありました。そこで、当団体では、誰もが手軽に支援情報にアクセスできる仕組みとして「北海道支援情報ナビ（以下ナビ）」を開発しました。LINEのチャットBOT機能を活用し、生活・家族関係、心と体の悩みなどに対応する道内の相談窓口を検索できます。登録者は30～50代を中心に約4146人（掲載時点）で、女性が約6割を占めています。ナビ経由で緊急食糧支援を受けた方の約半数が「相談できる人がいない」孤立状態であり、支援の届きにくさが浮き彫りになりました。

令和4年度には、孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業



▲北海道支援情報ナビカード

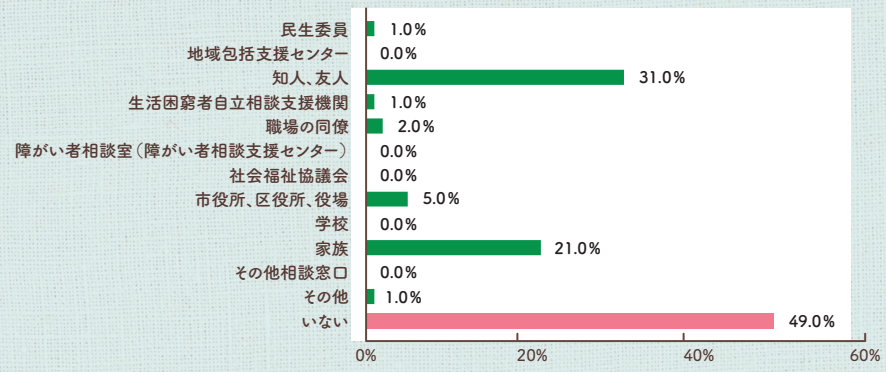

北海道支援情報ナビロゴ

◀北海道支援情報ナビ お友達登録 二次元コード

の一環として、北海道と「北海道支援情報ナビを活用した支援情報の提供に関する事業連携についての協定」を締結。また、NPOサポートセンターや登別市と連携し、支援情報の収集・提供、オープンデータとの連携、民間企業との協働による周知活動などを進めています。

その結果、ショッピングモールでの周知カード配布や、一部のJR駅等で「北海道支援情報ナビ」を自殺対策として活用するなど、地域の民間企業等と連携しながら「孤独・孤立対策」の活動を広げています。

図3 困っていることの相談相手



②【フードバンク窓口連携事業】孤立する相談者と支援者を食でつなぐ～道内における食糧支援体制整備事業～

フードバンクと相談窓口との日常的な連携体制を構築し、相談窓口が食糧支援を活用して効果的な支援ができるよう支援者支援を行っています。また、この取り組みは、北海道内のどこからでも「食べるものがない」という困りごとに迅速に対応できる支援体制を整備することを目的としています。

相談支援窓口からのSOSには窓口配布セットや個別配送を行い、孤立する相談者には北海道支援情報ナビ経由でアウトリーチ型の支援を実施。ナビ経由で食糧支援を受けた方の50％が「相談できる人がいない」孤立状態であり、4割が借金を抱え、単身・ひとり親・共働き世帯など多様な背景を持つ人々が誰にも相談できず困窮していることがわかりました（図3）。

③【北海道生活困窮者支援ネットワーク【どうねっと】の事務局運営】支援者自身の孤立防止・支援者同士が支え合う仕組みづくり

支援を必要とする人だけでなく、支援する側も孤立する状況がありました。支援者が孤立すると支援も孤立し、必要な支援が届かない状態になってしまいます。そこで2023年、生活困窮者自立支援制度の理念である「自立の尊厳の確保」「支援を通じた地域づくり」の実現に向け、支援者同士が支え合い、官民連携で課題解決に取り組むことを目的として【どうねっと】が発足。当団体はその事務局を担い、北海道内における支援者支援の仕組みづくりを進めています。



4. 孤独・孤立問題について私たちができること

孤独・孤立の問題は、地域に暮らすひとりひとりが直面する課題であると同時に、支援者自身もつながりを必要としています。誰も一人では生きられないように、支援も一人ではできません。当団体では、地域の人々に「頼れる場所がある」ことを伝えるとともに、支援者がつながるためのツールや仕組みを通じた後方支援を行っています。支援する・されるではなく、互いに支え合える地域となるよう、ひとりひとりが自分にできることを少し広げ、身近な人を気にかける関わりが重なりあっていくことで、「誰にも相談できる人がいない、困ったときに頼れる人がいない。」という状態が少しでも少なくなることを願っています。地域に生きるすべての人を取り残さない社会を目指し、微力ながらお手伝いをしていきたいと考えています。私たちの活動について応援してくださる方はこちらのHPをご覧ください。

● 一般社団法人北海道ねっとわーくホームページ
https://www.hokkaidonetwork.net/

ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォームについて

北海道保健福祉部福祉局地域福祉課　主査　林　美樹

❶孤独・孤立について

単身世帯の増加や働き方の多様化など、社会構造の変化により、家族や地域などにおける人と人とのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立の状態に陥りやすい状況になっています。

また、コロナ禍を経て、直接・対面でのコミュニケーションが減少するなど、社会環境が変化し、孤独・孤立の問題がこれまで以上に顕在化・深刻化しています。

孤独・孤立は、人生のあらゆる段階で誰にでも生じうるものであり、個人の問題ではなく、社会全体で対応しなければならない問題です。

❷ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの設置

北海道では、自殺対策やひきこもり対策などの体制強化、北海道ケアラー支援条例の制定など、孤独・孤立の要因と考えられる様々な生活分野ごとに各種事業を実施していますが、孤独・孤立対策として総合的に実施する事業はありませんでした。

令和４年、国のモデル事業として、官民による連携基盤の形成のための準備、現状把握や支援情報の発信強化などの取り組みを実施し、令和５年10月、「ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を立ち上げました。

このプラットフォームでは、孤独・孤立対策の推進に向けた啓発、行政機関・支援団体の活動内容や好取組・ノウハウの共有などを行うこととし、北海道のほか、北海道社会福祉協議会をはじめとする孤独・孤立対策に関する中核的な役割を担う団体（幹事団体）と市町村や支援者団体などの孤独・孤立対策に関連する取り組みを行う団体（会員）で構成しています。

❸「つながりづくり」が大事！

孤独・孤立の問題は複合的な要因によるものであり、自治体や団体単独での対応が難しい場合があります。福祉分野・支援者団体にとどまらず、町内会などの地域団体や文化・スポーツの市民活動団体など、地域の関係者が顔の見える関係をつくり、対等に相互につながる水平的な連携・協働を進めていくことが必要です。

道としては、引き続き、孤独・孤立を感じる方々が支援を求めやすく、また、支援者が声をかけやすい環境づくりを進め、人と人とのつながりが生まれる地域社会の実現を目指してまいります。

北海道社会福祉協議会では、「孤独・孤立支援ポータルサイト」を作成し、相談窓口の一覧や国・支援機関の孤独・孤立に関する情報を一元的に集約し、発信していきます。（※今後随時更新していきます）

また、地域での孤独・孤立の当事者を支える仕組みは、専門的な相談窓口だけではなく、身近な理解者を増やしていく取り組みが効果的です。住民一人ひとりが気にかけ・声をかけ、つながりを作っていける地域づくりを進めるために「つながりサポーター養成講座」を各振興局圏域（令和７年度は道内10か所）で開催しています。



● 孤独・孤立支援ポータルサイト
https://kodoku-koritsu-taisaku.jp/

はぁと♥ステーション

道内の福祉施設・事業所・関係団体等の取り組みを毎回ご紹介します



社会福祉法人岩内厚生園

児童養護施設 岩内厚生園

施設長／高橋 一彦

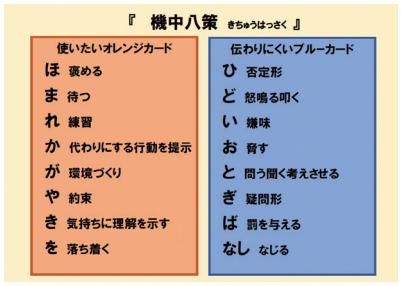
〒045-0012
岩内町字宮園1番地2
TEL 0135-62-0729
FAX 0135-63-0626

■岩内厚生園とは

北海道後志地区にある海と山に挟まれた町、岩内町に児童養護施設岩内厚生園は位置しています。本園は明治31（1898）年、鈴木久太郎氏が岩内消防小頭として従事していた際、身寄りのないお年寄りを自宅に保護したのが始まりであり、明治41（1908）年、資材の一切を売却し建てられたのが岩内救護所です。その後、戦争の影響でお年寄り以外も救護するようになり、昭和22（1947）年児童福祉法施行と同時に養護施設として認可を受け、昭和25（1950）年財団法人岩内厚生園と名称を変更し、現在までの歴史を繋いでいます。

■施設での取り組み

児童養護施設は2歳から18歳までの児童が入所し、家庭復帰や社会自立を目指し暮らしています。子どもたちは施設生活で基本的な生活習慣を確立し、岩内厚生園の支援目標である「元気な子」「素直な子」「思いやる子」を軸に生きていくうえで必要な力を育んでいます。幼児は園内保育を行っており、個々の能力に合わせた保育を考え幼児の成長を促しています。学齢児は地域の小中学校、町内外の高校へ進学し、日々頑張っています。本園は大舎制であり現在は50名の児童が在籍しています。一つの建物に50名が暮らしている為（一階フロアが男子、二階フロアが女子）喧嘩も絶えませんが、大舎制だからこそ関われる異年齢との交流は、自然と社会性が身につく環境ともいえます。その分個々の権利、子どもの最善の利益を職員は常に考え、支援に努めています。本園の支援は、千葉県の児童相談所長である渡邉直氏が考案した、子どもとの非暴力的なコミュニケーションを促すためのツール『機中八策』を取り入れています。



行事では園全体と、小グループに分かれての行事を組んでおり、日本の四季や文化に触れることが出来る機会も設けております。一番大きな行事は年末イベントの年夜の会であり、岩内高原ホテル様の協力を頂き、楽しい一夜を過ごします。

■地域との交流

本園は、第一種社会福祉事業児童養護施設岩内厚生園の他に、第二種社会福祉事業障がい児通所支援事業児童発達支援事業・放課後等デイサービス『チャレンジキッズどんぐり』も手掛けており、地域の子育てサポートも行っております。本園が中心となり地域の皆様と交流する機会を設けることは出来ておりませんが、長年岩内厚生園の子どもたちをイベントに招待してくださる岩内地域団体の皆様をはじめ、沢山の理解者がいてくださることで子どもたちの笑顔も増えています。

子どもたちがこれからも楽しく逞しく生きていけるよう、全身全霊支援に努めてまいります。



令和６年度年夜の会の様子

営業品目
■広告代理業 ■デザイン制作
■オンデマンド印刷 ■オフセット印刷
■COPY・製本 ■スキャニング
■電子納品 ■HP制作
■設計・CAD・建築施工図作成
■OA機器、什器備品、事務用品販売
■看板

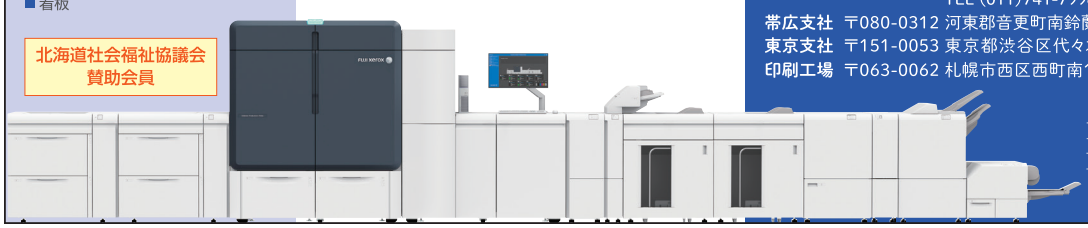
北海道社会福祉協議会 賛助会員

欲しい『ヒト』に、欲しい『モノ』を、
欲しい『トキ』に、欲しい『カズ』だけ。

ondemand
ALPHA BUSINESS

すべてがオンデマンド。
株式会社 アルファビジネス
E-mail info@alpha-businesss.co.jp
U R L https://www.alpha-business.co.jp
札幌本社 〒060-0906 札幌市東区北6条東4丁目1-7 de AUNE SAPPORO 3F TEL (011)741-7998 FAX (011)741-9091
帯広支社 〒080-0312 河東郡音更町南鈴蘭南1丁目1番地2-6-15
東京支社 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-19-12
印刷工場 〒063-0062 札幌市西区西町南11丁目1-10

Green Power WIND 546000



FUJIFILM
Iridesse Production Press
【CMYK+金+銀+白+クリア】

今年も10月1日からスタート！赤い羽根共同募金運動



今年も10月１日から全国一斉に79回目となる赤い羽根共同募金運動がはじまりました。

共同募金への寄付金は、さまざまな社会課題や地域課題の解決に向け取り組む団体の活動など、誰もが安心して暮らせるまちづくりのため、寄せられた地域内で役立てられているほか、地震や豪雨等による大規模災害時においては都道府県域を越えても役立てられ、災害直後から被災地の復旧・復興活動を大きく支える役割を担う「災害ボランティアセンター」の設置や運営など、即応的に助成を行うための資金としても共同募金の一部は活用されています。

今年も「じぶんの町を良くするしくみ。」である共同募金運動へ、皆さまのご協力をお願いいたします。

北海道での令和６年度共同募金総額について

令和６年度も北海道内外より、みなさまのあたたかい支援の気持ちとたくさんの募金が寄せられました。寄せられた募金は令和７年度の北海道内のさまざまな福祉活動に活用されています。ご協力誠にありがとうございました。

第78回赤い羽根共同募金運動

≪運動期間：令和６年10月１日～令和７年３月31日≫

令和６年度共同募金総額	661,426,116円（※令和5年度総額　655,778,463円）
赤い羽根募金（10/1～ 3/31）	487,760,054円
歳末たすけあい募金（12/1～12/31）	173,666,062円

令和６年度共同募金助成決定について

令和６年度の共同募金による助成について、全道の社会福祉協議会、福祉団体、福祉施設、歳末たすけあい見舞金等の事業を対象に、右記のとおり決定いたしました。

助成内容	助成額
子どもからお年寄りまで町の福祉活動のために	395,296,200円
福祉施設や団体、NPO、ボランティアの活動のために	72,143,905円
災害の備えや被災された世帯への支援のために	21,660,000円
支援を必要とする人が安心して暮らすために	172,326,011円

赤い羽根共同募金　募金ピンバッジ

2025年デザインが新登場！

多くの方に「赤い羽根共同募金」へ関心を持っていただくことを目的として、また気軽に寄付にご協力いただけるしくみとして、赤い羽根をデザインした寄付金つきのオリジナルピンバッジを製作しております。

500円以上の募金協力でピンバッジを１個進呈しており、左記デザインのほか、道内の市町村において、各地域のご当地キャラクターや景勝地等をモチーフにしたオリジナルピンバッジを取り扱っておりますので、お近くの共同募金委員会へお問合せください。

2025年赤い羽根ピンバッジ

エゾタヌキ　エゾモモンガ　初音ミク



Art by あと ©CFM

お問合せ

社会福祉法人 北海道共同募金会
〒060-0002 札幌市中央区北２条西７丁目 かでる2･7 ４階
TEL 011-231-8000／FAX 011-231-8003
ホームページ https://www.akaihane-hokkaido.jp/

赤い羽根共同募金　赤い羽根　北海道　検索

北海道共同募金会 X（旧 twitter）

「しんらい」と「あんしん」をお届けします。
北自共の総合自動車共済・自賠責共済

割安な共済掛金	共済事業なので営利を目的としていません
充実のロードサービス	24時間365日対応・等級に影響なし
安心の事故対応力	事故解決の専門家が素早く対応

北海道社会福祉協議会賛助会員
札幌市見守りポスター掲示協力賛助会員



自動車共済は北海道社会福祉協議会を応援しています！
☎011-721-5233
FAX：011-721-0801
電話の受付時間／平日 9:00～17:00

中小企業と従業員の皆さま、個人事業主さま向けに割安な掛金！
北海道自動車共済協同組合
〒065-0030 札幌市東区北30条東1丁目3-2 https://www.hokujikyo.jp
北自共承認NO.25-005

NPOくるりんlabo

こどもみらい塾

「誰もが自分らしくいられるインクルーシブな社会について、みんなで考える」を理念に、医療・福祉・教育・地域が協働し障がいがあってもなくても、みんなが同じ場で同じように楽しみ学び合える場づくりを探求しています。

●基金を活用した事業

こどもみらい塾
①ごちゃまぜ北大祭ツアー　②インクルーシブ夏祭り
③ロケット教室　④たいやきパラダイス
⑤発想力☆むげん研究部

●良かった点

障がいがあってもなくてもみんなで楽しめる機会をつくることができました。また、イベントを主催するのではなく、協働にこだわることにより地域の方々とともにインクルーシブな共生社会について考える機会となりました。

NPO くるりん labo は、手稲区を中心に札幌市全域で、「障がいがあってもなくても誰もが同じ場で同じように楽しみ学び合える」ことを目的とした「こどもみらい塾」を開催しています。私たちは協働することを大切に、医療・福祉・教育・地域とともにイベントの企画や場づくりに取り組んでおります。

現在、医療的ケアの必要な障がいのある子どもたち（医療的ケア児）は特別支援学校や放課後等児童デイサービス、短期入所事業所といった分けられた場所で日々生活を送っているという現状があります。しかし、大人は時に子どもから多くのことを学ばされるように、障がいのある子どもたちからも学ぶことは多々あります。このことから、子どもも大人も、障がいがあってもなくても、それぞれの個性を認め合い活かし合えるインクルーシブな場ができたらいいなと思いながら活動をしています。

インクルーシブ夏祭り（町内会との協働）



医療的ケア児の暮らす地域の町内会と協働し、毎年行っている夏祭りの在り方を見直しました。町内会としては年々こどもの参加が減っているという課題があり、そこで夏祭り実行委員に子どもたちを募り、一緒にお祭りを作り上げる計画を立てました。結果として10名の子どもたちから申し込みがあり、１ヶ月かけて「どんな縁日を作りたいか」をともに考え、準備を進めました。「スーパーボールすくいをやりたい！」「〇〇ちゃんって車椅子からどうやってすくうの？」「釣り竿があったら車椅子からでもできるんじゃない？」「それじゃあヨーヨー釣りにしよう！」といったように、大人が介入せずとも子ども同士の話し合いの中で自然とインクルーシブな夏祭りが形作られていきました。夏祭り当日もみんなでお店屋さんをやり、みんなで楽しみ、３年が経過した現在では「車椅子でも楽しめるのが当たり前」という雰囲気が定着しつつあります。

たいやきパラダイス（北海道科学大学学生団体との協働）

手稲区にある北海道科学大学の学生団体と協働し、たい焼きポーチを作るイベントを実施しました。大学生にとっては、普段関わることのない医療的ケア児が地域の子どもたちとどのようにしたら同じ場で同じように楽しむことができるかをともに考える貴重な機会となりました。たい焼きポーチづくり、逃げていったたい焼きを釣るゲーム、たい焼きダンスなど、様々な工夫が凝らされ、みんなで楽しめる場をともにつくることができました。

参加された保護者の方からは、「参加してみて障がいのある子も参加していて驚いてしまった。それ以上に、自分の子どもが障がいのある子と普通に遊んでいることに驚いた」、「私の子ども（医療的ケア児）がいろんな子が来るイベントに参加しても楽しめるか不安があったが、参加してみてとてもよかった。これからは自信を持って外に出てみたい」といったお声をいただき、子どもにとっても大人にとっても実りの多い時間となったことが伺えました。



発想力☆むげん研究部（イオン北海道株式会社との協働）

今年度から新たに開始した「発想力☆むげん研究部」は、イオン北海道株式会社さんと協働しイオン札幌手稲駅前店の屋内ひろばで毎月開催しています。大型ショッピングモールの真ん中で、みんなが個性を発揮し、安心して自由に遊べる場づくりを目指しています。月ごとにテーマを替え、「紙」「袋」「ストロー」「紙皿」と、その日ある材料を使って、時間いっぱい好きに遊ぶ時間としています。リピーターも増えてきており、徐々にイオンがみんなの居場所の一つとなりつつあります。



☆北海道社会福祉総合基金とは☆

昭和48年に民間福祉事業の進展のために設立された北海道社会福祉協議会で管理・運営している基金です。基金の運用益を活用しながら、道内の児童、障がい者、高齢者、地域福祉、生活困窮者分野に対する様々な福祉活動を行う団体への助成事業を進めています。

★NPOくるりんlabo★
代表者名：中安 恭平（社会教育士／理学療法士）
設立年月日：2024年4月1日
会員数：4名
連絡先：札幌市手稲区稲穂1条5丁目2-14
TEL：090-9439-2776
Mail：nakayasu.clurinlabo@gmail.com

小樽市社会福祉協議会の活動を紹介します（代表者：会長　近藤 眞章）

小樽市社会福祉協議会（以下本会）は、小樽市内の福祉活動や福祉サービスの展開をバックアップし、福祉ニーズに柔軟に対応して調整を行うなど地域福祉活動の拠点として地域の皆様をはじめ多くの福祉団体、福祉関係の方々にご協力をいただきながら、小地域ネットワーク活動、給食サービス事業、福祉除雪サービス事業、屋根雪下ろし助成事業、フードドライブ事業、相談事業、貸付事業などの地域福祉活動やボランティア・市民活動に対する支援のほか、総合福祉センターや点字図書館の管理運営、権利擁護事業、訪問介護・居宅介護支援・地域包括支援の介護保険事業、共同募金会、日本赤十字社等の事業を行っています。

小樽・北しりべし成年後見センター

平成22年４月から、北後志圏域６市町村（小樽市、積丹町、古平町、余市町、仁木町、赤井川村）にお住まいの認知症や、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な方を主な対象として成年後見事業を行い、その方の権利を守り、地域で安心して生活できるように支援を行っています。

後見業務においては、単に業務として接するのではなく、利用者の気持ちに寄り添い、面談時の会話など、利用者が楽しい時間を過ごせるように配慮をしています。また、在宅で暮らす方を主な対象とした「日常生活自立支援事業」では支援が難しい施設入所者や入院者を対象に金銭管理を行う「あんしんサービス事業」を独自に実施することにより、切れ目のない権利擁護支援を行っています。これらの活動が、このたびの全国社会福祉協議会会長表彰（社会福祉協議会優良活動表彰）の受賞に結び付きました。



新たな活動拠点

昭和46年から50年以上にわたり本会が小樽市から受託し管理してきた「小樽市総合福祉センター」が、令和７年度から大型商業施設「ウイングベイ小樽」へ移転となりました。併せて法人本部機能も移転し、新たな活動拠点で地域福祉の推進を目指します。



PICKUP事業

令和４年度から、各家庭や企業から本会へ食料品を寄付いただき、それらをまとめて福祉施設や地域で活動する福祉団体、子ども食堂等へ届ける「フードドライブ事業」を実施しています。

令和５年度からは市内のスーパーアークス（令和７年８月時点２店舗）の協力により、「店頭回収 BOX」を設置し、多くの食料品を寄付いただいています。寄付いただいた食料品は、小樽市福祉総合相談室「たるさぽ」や小地域ネットワーク活動団体等の関係団体を通じ、支援を必要とされている方々へお届けしています。



小樽市社協職員ってどんな人？？

令和７年度法人本部に新たに加わった新人職員を紹介します。

Q：自己紹介と今後の抱負を教えてください。

A：地域福祉係の小林優希です。今年大学を卒業し入職しました。まだまだわからないことだらけですが、元気と笑顔を常に意識しています！地域の皆様から「小林君！」と頼ってもらえる、素敵な職員を目指します！



●所在地等：〒047-0008 小樽市築港11-1 ウイングベイ小樽1番街4階 小樽市総合福祉センター内
電話：0134-23-3653　ＨＰ：https://www.otaru-shakyo.jp/
「たるCAN！」アプリ：https://www.taru-can.com/



IS503035/JISQ27001:2006
当社は ISMS 認証企業です。

知的 快適 創造的オフィス創りで地域に貢献する
サンコー事務機株式会社
お客様の変えたい・良くしたいを「カタチ」にするオフィス・施設の総合ディーラー
〒060-0013 札幌市中央区北 13 条西 18 丁目 36 番 90
TEL 011-614-2255（代表）FAX 011-614-5245 URL http://www.sancoh.gr.jp/
取扱品目
OA 機器全般の販売・レンタル 、オフィス関連商品の販売、プロバイダー事業、ＩＣＴ関連機器の販売、ネットワークシステムの構築、小冊子などの印刷を行うドキュメントサービス、情報システムの提案・導入・保守、基幹系業務（販売管理・給与計算・財務）等をはじめ、その他各業種業務用パッケージソフト提案・導入・保守、OA 機器の保守、点検、修理等、福祉機器関連商品の販売、NTT 商品取次、その他、オフィス・施設の環境をよりよくするための一切の事業



寄付の受入状況

（令和７年２月１日～令和７年８月31日まで）

たくさんのご支援ありがとうございました。

◎本会へのご寄付をいただきました。

（敬称略）

年　月	寄付者（団体）名	寄　付　先	寄付内容
令和７年２月	日本ハムマーケティング株式会社	北海道社会福祉総合基金	金　19,723円
令和７年２月	東洋羽毛北部販売株式会社	北海道社会福祉総合基金	金　12,308円
令和７年２月～ 令和７年８月	一般社団法人いいことファーム	北海道社会福祉総合基金	金　302,400円
令和７年２月～ 令和７年８月	株式会社日本トリム	北海道社会福祉総合基金	金　525,250円
令和７年３月	北海道遊技事業協同組合	北海道社会福祉総合基金	金　300,000円
令和７年６月	ブックオフコーポレーション株式会社	北海道社会福祉総合基金	金　4,110円
令和７年８月	東洋羽毛北部販売株式会社	北海道社会福祉総合基金	金　7,971円

◎社会福祉施設等へのご寄付をいただきました。

（敬称略）

年　月	寄付者（団体）名	寄　付　先	寄付内容
令和７年３月13日	札幌ユネスコ協会	北海道ボランティア・市民活動センター	寄付金　50,000円
令和７年５月９日	北海道アイスクリーム協会	児童養護施設・特別支援学校等54か所	アイスクリーム　4,131個
令和７年８月６日	NEC ソリューションイノベータ株式会社	子ども食堂	寄付金　10,888円
令和７年８月27日	サンマルコ食品チャリティ会	石狩管内の児童養護施設７か所	寄付金　1,300,000円
令和７年２月～ 令和７年８月	株式会社セブン－イレブン・ジャパン	道内市町村社協22か所	食料品、雑貨類



北海道アイスクリーム協会より５月９日のアイスクリームの日を記念して、児童養護施設・特別支援学校の児童に対し、毎年アイスクリームをご寄贈いただいております。



介護施設向け
夜間オンコール代行™なら
ドクターメイト

介護施設向け
夜間オンコール代行
サービスにおいて
※1
導入実績
No.1



[調査期間] 2024年11月1日～2024年11月2日
※1 夜間オンコール代行™において介護施設・老人ホームに勤めいている・勤めていた方1000名を対象に調査。[調査企画] ドクターメイト株式会社 [実査機関] クロス・マーケティング

03-6822-5055

授産製品紹介
きらきら☆マルシェ

北海道社会福祉協議会
北海道障がい者就労支援センター

道内の障がいを持った方々が、その人の個性や能力に合わせながら、施設や作業所で、自立生活に向けた作業・訓練の一環として作っている製品をご紹介します。



① 社会福祉法人千歳いずみ学園 いずみワークセンター［千歳市］

商品名（すべて税込）

- ハスカップジャム（140g） 980円
- ハスカップワインコンフィチュール（140g） 980円
- キャラメルラスク ハスカップ（50g） 190円

問い合わせ先

TEL 0123-42-8113
ホームページ
https://izumigakuen.or.jp/
メールアドレス
izumi_workcenter@izumigakuen.or.jp

社会福祉法人千歳いずみ学園
いずみワークセンター
千歳市清流2丁目4番4号

いずみワークセンターでは、障がいがある方々への就労支援の一つとして、ハスカップを使用した商品を製造・販売しております。

肥沃な馬追丘陵で自家栽培されたハスカップを主原料とし、添加物を一切使用せずに作られるハスカップジャムは、ハスカップ本来の味を楽しめる商品として、多くの方にご好評をいただいております。

また、今年新たにハスカップワインコンフィチュールを発売いたしました。コンフィチュールとは、ジャムよりも甘さ控えめでとろみがあり、果物の原型を保つように作られている保存食です。

当事業所のハスカップワインコンフィチュールは、千歳市内のワイナリーで醸造時に出るワインパミス（搾汁後の果皮など）とワインを使用しております。

従来ワインパミスの多くは廃棄されていましたが、サスティナブルの視点からワイナリーとコラボレーションして、新たな価値を見出した、ワインの風味が薫るコンフィチュールとなっております。

いずれの商品もパンはもちろん、ヨーグルトやチーズ、クラッカーなどと共にお楽しみください。

これらの商品はいずみワークセンターの他、道の駅「サーモンパーク千歳」様や新千歳空港「ハスカップ」様などでも販売しております。当事業所に直接ご連絡いただければ、地方発送もお承りしております。お気軽にお問い合わせください。

② 社会福祉法人室蘭言泉学園 花ファクトリーあけぼの［室蘭市］

商品名（すべて税込）

- マリーゴールド（9cmポット／4月中旬～／黄、橙、赤）1株 100円
- ベゴニア（9cmポット／4月下旬～／赤、白、桃）1株 100円
- サルビア（9cmポット／4月下旬～赤、青）1株 100円

※上記商品は、定番品の花苗（一年草）となります。



私たち、「花ファクトリーあけぼの」では、花苗の生産、育苗、配達、販売を行っております。

花苗は、前年度の秋から種蒔きを始め、冬の間にじっくり準備し、販売期間である４月上旬から６月末まで一斉に販売を行っています。

今回ご紹介した商品は、毎年まとまった数を生産しているオーソドックスな一年草です。それ以外にもその年その年で趣向を変えながら多年草や宿根草の生産にも挑戦しています。

2025年度では、細かく分けて約40種の花苗を6，５万株程度生産しました。苗は当事業所での販売や市場への出荷に加え、市内の町会や公園の花壇、道内の観光農園や遊園地、高速道路パーキングエリアなどに納めさせていただいています。

土にもこだわり事業所で配合した土を使用することで、お客様からは「大きくて丈夫な苗」とお褒めいただいております。その年により苗の種類や生産数は異なりますが、ご要望に合った商品をご提案できるよう努めてまいります。花苗が必要になった際には、是非お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先

TEL 0143-50-6582
ホームページ https://www.gensen.or.jp/html/bumon1/hana/hana.html
メールアドレス hanafactory@gensen.or.jp

社会福祉法人室蘭言泉学園
花ファクトリーあけぼの
室蘭市神代町30番7号

＜ナイスハートネット北海道からお申し込みいただけます＞

北海道社会福祉協議会では、北海道が推進する「障がい者就労支援推進計画」に基づき、企業や団体と授産事業所をマッチングさせ、授産事業所等の商品、役務を広く企業や団体の方にご利用いただくためにホームページを開設しています。今回ご紹介した商品も取り扱っており、ホームページ上で仮申し込みができます。

（ホームページ上では決済できないため、申し込みを一旦道社協において受け付け、事業所へ発注します。）

ホームページアドレス　http://nice-heart-net.jp/

ナイスハートネット　検索　クリック

喀痰吸引等研修 1号・2号

48回/年 開催
助成金最大 70%還元
実地提携先 200施設



Presence Medical
株式会社プレゼンス・メディカル
0120-698-789(代)　https://presence-m.com

明るい社会 No.703 2025年度 第1号
■発行／社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 TEL 011・241・3976 FAX 011・251・3971 http://www.dosyakyo.or.jp
■定価／120円（会員90円・一括25円） ■印刷／（株）北海道機関紙印刷所
※『明るい社会』は、赤い羽根共同募金の助成金を受けて作成しています

令和７年度

https://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類＼プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

商品パンフレットはコチラから

（ふくしの保険 ホームページ）

<重 要>

- 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- 中途脱退による保険料の返金はありません。
- 中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ご加入は、お１人につきいずれかのプラン１口のみとなります。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

〈SJ24-10057 より抜粋〉

編集後記

日ごとに秋が深まり、朝夕には肌寒さを感じる頃となりました。この季節の変わり目に、改めて身近なつながりを見つめ直すきっかけになれば幸いです。